



栗原 ひかるさん

●戸奈良小学校 6年

お客さんをきれいにしたい

わたしの将来の夢は美容関係の仕事をすることです。父が美容師なので、小さいころから仕事の話を知ったり、雑誌を見たりしていました。わたしの髪の毛をセットしてもらったり、実際にお店で仕事の様子を見たりもしました。

わたしは髪だけでなく、ネイルやメイクなど、今の時代にあった資格を取り、たくさんの人をきれいにしてお手伝いをしたいと思います。お客さんがきれいになって喜んでくれたらとてもうれしいです。



佐野ブランドキャラクター
さのまる

市長からの メッセージ



いよいよ夏本番となりました。皆さんいかがお過ごしでしょうか。先月10日は参議院議員選挙が行われました。選挙権年齢が18歳に引き下げられ、初めての国政選挙ということで注目された選挙でしたが、総務省の発表では10代の投票率は45・45%と全体の平均を下回ったとのことでした。本市では市内の高校を訪問し、主権者教育についての出前講座を行ってまいりましたが、今後も定期的に10代の新有権者に対する選挙啓発を実施してまいりたいと考えております。

現在、第2次総合計画の策定に向け地区別懇談会を実施しております。市内12カ所中、これまで半分の6カ所で開催いたしました。それぞれの会場で参加いただいた皆さんから、佐野市の将来像に対し、ご意見やご提案をたくさんいただいております。本市の将来を思う皆さんの熱いお気持ちに接することができ、大変うれしく感じております。この後も10月まで各地区を回りますので、皆さんの夢のあるご意見・ご提言を伺わさせていただきたいと思っております。

さて、先月から市内各地で夏祭りが開催されています。佐野市3大祭りの先陣を切って7月24日に「たぬまふるさと祭り」が盛大に開催されました。今月6・7日には「さの秀郷まつり」、27・28日には「くず原人まつり」と続きます。「さの秀郷まつり」は新庁舎完成後、初めての祭りになります。新庁舎を背景に熱気ある祭りが繰り広げられることを期待しておりますので、ぜひ皆さんもご参加ください。暑い日が続きます。水分補給を忘れずに、元気に夏をお過ごしください。

岡部正英



今回の表紙 「さの秀郷まつり」 8月6日・7日 佐野市役所周辺で開催

今年もさの秀郷まつりが開催されます。6日(土) 秀郷流流鏝馬や市民総踊りなどが、翌7日(日)には壮大な神輿・お囃子の巡行があります。さの秀郷まつりの詳細は、広報紙と同時に配布するチラシをご覧ください。

また、今年もさのまるのイベントを同時開催。こちらは裏表紙でご紹介しています。

小島 稔さん (久保町)



○プロフィール
平成28年4月、佐野市消防団
団長に就任。
平成27年春には、地域の防災
に尽力したとして、藍綬褒章を
受章。

キラリ★ 話題の「ひと」

佐野市消防団団長に就任

小島さんは昭和49年に消防団に入団して以来、40年以上にわたり消防団として地域の防災に尽力しています。その活動の源となるのは「自分たちの街は自分たちで守る、それが郷土愛護の精神であり、どのような災害が起きようと、地域の人々の生命・身体・財産を守ることに消防団員」という思いだそうです。

長年の活動により、昨年春には褒章を受章。そして今年度からは佐野市の消防団長に就任。これまで以上の責任を抱え、佐野市全31分団の団長となりました。団長に就任するにあたっては「団員減少を防止する具体的な対策を考えよう」と思ったそうです。

7月4日に行われ、初めて消防団長として迎えた「夏季点検」の際には、消防団を支える市民の皆さんへの感謝をこめながら「近年の災害は複雑多様化し、消防団の活動も多岐に渡ります。

こうした災害に対し、我々消防団員は今後も、いついかなる災害が起きようとも、即座に対応できるよう更なる技術向上に努め、市民の皆様から信頼と期待を寄せられる、消防団に成長するように努力します」と話していました。団長として今後取り組んでいくのが

「技術向上」と「団員の減少防止」、そして「活動の活性化」。小島さんにとっての消防団は防災活動をするのはもちろんですが、その活動から生まれる団員間の連帯感がたまらなくいいものだと思います。「より多くの方に消防団を理解し、支持していただくとともに、ぜひ多くの方に入団してもらい、消防団員として一緒に活動していただきたい」と話していました。

市でも消防団をより一層支援していくため、「消防団サポート事業」などを予定しています。地域の防災のために日々活動する消防団の皆さんへのご支援をよろしく願います。



夏季点検の際に、市長に敬礼する小島団長

佐野弁 ばんてい

子どもたちの楽しい川遊びに ズンブツググリがあった

川には流れの速いところがあれば、遅いところもあります。また、水深の深いところがあれば、浅いところもあります。特に深いところは、フカンボといたり、フカンドなどといいます。水の湧き出る深いところは、イズンボとって、フカンボ(ド)と区別しています。夏休みになると、子どもたちは「ミズアスピ(水浴)」とって、イズンボやフカンボ(ド)に行つて泳いだり、もぐったりします。水中に全身を沈めることをズンブツググリといい、楽しい遊びのひとつでした。でも昭和二十五・六年頃を境にして、この方言はだんだん使われなくなりました。

「フカンボにズンブツググリして、マリー(周り)をじっと見てみな。ニガツパヤ(はやの一種)やヤモ(ヤマメ)の泳いでんのがヨークメールド(よ)」

ズンブツググリしたまま水中にどの程度いられるか、我慢くらべする遊びもありました。ズンブのもの形はズブで、からだを水中に沈ませる、全身が水につかるという意味です。

ズンブツググリすると同じ意味の方言に、ツンモ(ム)ググルがあります。「あの子はフカンボにツンモググルや、川ん中を泳ぎマーツテンだつてガネ」のように、ツンモ(ム)ググルには強いひびきがあります。イズンボやフカンボで楽しんで子どもたちの遊びは、もう見られなくなつたし。遊びにまつわる方言も聞かれなくなつてしまいました。

(市民記者 森下喜二)

